

自己評価力の向上に着目したワークシートの工夫

熊本市立
桜山中学校教諭

松原 三也子

1 論理的に思考・判断・表現するスキルの育成

家庭分野の学習を始めるにあたって、論理的に思考する際に手がかりとなるツールである三角ロジック（図1参照）について生徒と共有した。

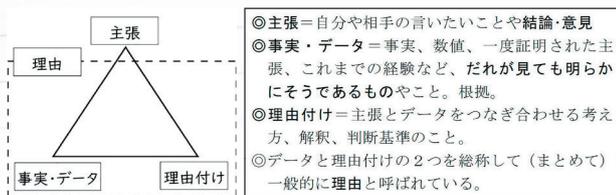


図1 三角ロジックの考え方

日常の授業においても三角ロジックを意識することで、教師の発問の質が変わる。「理由を考えてください」ではなく、「根拠は何ですか」「どう理由付けしたのですか」と問うことで、生徒は「考え方を学んでいくことができる。また、資料を読み取る活動を通して、例えば、「洗剤の濃度と汚れ落ちの割合」の図からは、洗剤の濃度と汚れ落ちの関係を「知る」だけではなく、思考力、判断力、表現力等を高める手立てとしてとらえることができる。

「このグラフから読み取れること」すなわち根拠を問うと、生徒は以下のように答えた。

- ・洗剤の濃度が低いと汚れ落ちが悪い。
- ・洗剤濃度が使用量の目安以上になると汚れ落ちは変わらない。
- ・洗剤の量をどんなに増やしても汚れが完全に落ちることはない。

さらに、「SDGsの視点から付け加えられる事実はないだろうか」と、問いを重ねることで、生徒から下のような考えが導き出された。

- ・洗剤を多く使うと、環境への負荷が増す。
- ・多くの洗剤を使うと、すすぎの水も多く必要である。
- ・洗剤の原料も多く消費することになる。

既習事項であることから、これも根拠であると捉えることができる。これらのデータや事実から、生徒は、「洗剤は、使用量の目安通りに使うのがよい」という結論に達した。その場合の「理由付け」として、「環境への負荷をできるだけかけずに（環境にできるだけ優しく）、しかも洗剤の効果を最大限に引き出すことが大事だ」という表現をすることができた。さらに、洗浄温度に着目させると、「入浴後のお湯を使って洗濯できればなお効果がある」ことも理論立てて説明することができた。

これらの積み重ねにより、話し合い活動の質を高めたり、学びの振り返りを行う場面等で論理的に表現する力を高めたりすることができる。自己評価力の向上にもつながる。また、図表を正確に読み取って判断するスキルは、生活の営みにかかわる見方・考え方を醸成する視点でも重要な手立てとなる。

なお、このような実践を他教科の教師とも共有し、学校全体で論理的思考力の向上に努めているところである。

2 題材構成とワークシートの工夫

(1) 学びの見通しを立てる導入の工夫

指導内容のまとめりごとの導入では、その題材終了時にどのような力を身に付けておくのかを明確にしておくことで、生徒は自分の成長の中で、何を評価の視点として捉える必要があるか、場面に応じて繰り返し確認しながら学びをすすめることができる。

ここでは、「健康・快適で持続可能な衣服の選択と手入れ（第2学年）」（学習指導要領C - (1) アイウ）を例に挙げる。題材終了時の生徒の姿を目指して、現在の生徒の実態からどのような手立てで学習を進めていくか構想を表している（図3）。なお、この学習指導案は、熊本市での共通形式による。

【題材の構想】

健康・快適で持続可能な衣服の選択と手入れ

徒の題 見材 姿 終了 生時	健康・快適に関わる視点やそのほかのSDGsに関わる視点から自分や家族の衣生活に目を向けて課題を発見し、学んだことを活用して自分なりに課題に取り組んだり解決したりしようとしている。		
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	「学びに向かう力、人間性等」
題材の 目標	①衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解する。 ②衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできる。	①衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	①よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。
目標 に向 かう た め の 手 立 て	○「3つのポイント」×「子どもが主体のICT」 【めあて】 自分や家族の衣生活をよりよくするためのめあてを各自設定できるようにするために、実生活につながる資料を提示し、生徒が自分事として捉えられるよう支援する。 【振り返り】 生徒が自分の学びや成長を実感できるようにするために、ワークシートや振り返りシートを活用し、その内容をタブレットに保存したり共有化したりする。また、自分の学びを更に深めたり振り返ったりするために、使用した資料等はタブレットに配布していつでも確認できるようにする。 【対話】 個別→グループ→全体で対話する場面ごとに、ワークシートに記入する文字の色を変えたり必要に応じてタブレットを活用したりすることで、他者の意見によって自分の考えや気づきが更に改善されていくことを認知させる。		
児童 (生徒) の 実 態	「衣服の計画的な活用について例を挙げて説明できる」と答えた生徒が2割に満たず、「衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れとはどんなことを指すか例を挙げられる」と答えた生徒も3割に満たなかった。どんなことを学びたいか尋ねたところ、「手入れの仕方を知りたい」と明確に答えた生徒が約半数に上り、自分の知識や技能に自信を持っていない様子が窺われる。	自分の「衣生活」に何か課題があると感じている生徒は半数程度である。その一方で課題があるかどうか考えたこともない生徒が4割に上った。これから学習したいことを自由記述させたところ、「課題の見つけ方や解決の仕方を学びたい」と明確に答えた生徒が少数ながら存在した。課題解決型学習を進めることで、生活に結び付けた実践ができることが考えられる。	「衣生活」の課題を解決するためにどんなことが必要だと思うか尋ねたところ(複数回答)、「知識や技能」だと答えた生徒が7割であった一方で、「課題に臨む必要感」や実践するための「時間」だと答えた生徒がそれぞれ6割であった。取り組む機会を設定して体験させることで、生活での実践化を促すことができると考えられる。

図2 題材導入時の学習指導案 — 題材の構想

題材の評価規準及び指導と評価の計画は以下の通りである。

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①衣服と社会生活との関りが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 ②衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。	①健康・快適で持続可能な衣生活を送るために、衣服の選択、日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定している。 ②衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について考え、工夫している。 ③衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	①よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ②よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ③よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について工夫し創造し実践しようとしている。

指導と評価の計画（14時間取り扱い 本時 2/14）				
課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
目指せ！SDGsの視点で衣生活を営む未来の社会人	1	1	○衣服計画について知るとともに、衣服の働きについて理解し、自分や家族の衣生活について問題を見だし、課題を設定する。	【知】①学習シート 【思】①ロイロノート、学習シート
		1	●衣服の選択について、SDGs（特にエシカル消費）の視点からも考え、必要な要件について検討する。	【知】①学習シート 【思】①学習シート、観察
	2	2	○自分の衣服について表示を調べ、組成表示、取り扱い表示の読み取り方を知る。 ○繊維の性質や布の成り立ちを知り、日常着に適した材料の工夫を考える。	【知】②学習シート
		2	○自分の家で使用している洗濯用剤について調べたことをもとに、それぞれの洗濯用剤の性質と適切な使い方について考える。 ○自分の衣服について、実際に手入れをするときに留意する点について考える。	【知】②学習シート 【思】②学習シート、観察
	3	2	○自分や家族の衣服の手入れについて問題点を見つけ、話し合い活動を通して実践課題を設定する。 ○設定した課題について、解決に向けた計画を立てる。	【思】①②学習シート、観察
			○計画を立てた実践を家庭で行い、レポートにまとめる。	
		4	○実践したことを工夫して発表し、相互評価する。 ○他者の実践内容と評価をもとに、自分の新しい課題を設定する。	【思】③④学習シート、観察 【主】①②③学習シート、観察
	4	2	○これまでの学習をもとにして、「自分らしい着方」の例を挙げ、イラストやキーワードでまとめ、相互評価を行う。	【主】③学習シート、観察

本時は、計画上第2時であるが、対象の生徒は指導者と初めて出会うこともあり、学びの見通しを立てる、という意味では実質的に題材の導入授業に当たる。本時の授業計画は以下の通りである。

【本時の授業計画】					
○本時の目標 日常着を選択する際にどんな視点が必要か考える活動を通して、そのためにどんな情報が必要か課題を把握する。					
○展開					
過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	7	1 本時のめあてをつかむ。	○教師がこの糸を選んで購入したのはなぜだろう。 ・色が素敵だから ・何かを作るのに適していたから	○手染めの綿糸の実物を提示して、様々な視点があることに気付かせる。	電子黒板 タブレット 手染めの綿糸
		日常着を選択するときに、どんな視点からの情報が必要だろう			
展開	33	2 どんな日常着を購入すると仮定するか、具体的に決める。	○どんな日常着を選択するか、具体的に決めよう。 ・家で着るトレーナー ・外出する際のパンツなど	○生徒の意見から対象物を決め、具体的に考えやすくする。	電子黒板 タブレット 学習シート ↓ 赤ペン 青ペン SDGs 一覧 (ロイロノート) 綿糸 学習シート
		3 購入するときに必要な視点にはどんなものがあるか、考える。 (1) 個人→グループ→全体で確認する。 (2) 本当にそれだけでよいのか再考する。	○皆さんが日常着を選択するとき、どんなことを確認して買う必要があると思いますか。 ・価格、サイズ、色、他との組み合わせ、素材、原産国など ○挙げてくれた点のほかに、確認しなくてはならない点は本当にないだろうか。例えば、SDGsの視点から思いつくことはないだろうか。 ・環境を破壊しない材料かどうか、男女ともに着られるかなど	◎【知】① 衣服を適切に選択するために確認すべき視点が分かる。 ○(導入で見せた)糸を選んだのは、できるだけ自然の素材を使って手作業で染めたものだと知っていたから→その工夫と技を支援しなかったからだと伝える。 ○失敗しない選び方をすることで、長く大切に着られることを確認する。	
		4 それぞれの視点がなぜ必要か考える。	○確認せずに購入して、失敗することはないだろうか。 ・家で洗えない ・サイズが違うなど		
		5 適した判断をするために、これからどんなことを学ぶ必要があるか、見通しを立てる。	○どんなことを学びたいか書き出してみよう。 ・素材ごとの性質 ・表示の見方 ・洗剤の使い分けなど	◎【思】① 衣服の選択について、どんなことを学ぶ必要があるか自分事としてとらえて書いている。	学習シート
終末	10	6 本日の学びを振り返る。	○今日の授業で何を学んだか、次時までどんな取り組みができそうか、シートにまとめよう。	○時間があれば、クリップビデオを視聴し、課題を見つけやすいように仕組む。	学習シート ロイロノート

図 3 題材導入時の学習指導案 — 本時の授業計画

図3で、展開の終わりに太線枠で囲んだ部分が、この題材を学ぶに当たって何を学ぶ必要があるのか生徒それぞれに認知させる場面である。生徒の「学びたいこと」に結びつけながら次時以降の授業を展開することで、その後の学習内容を自分事として捉えることに効果があった。

なお、以下はこの授業の振り返りとして、自分の課題について記述した例である。三角ロジックを共有した後だったので、できるだけ根拠を挙げて具体的に記述するように指導した。

- ・ いいものを長く着ることで、SDGsにもつながることがわかったので、「いいもの」とはなにかがわかるようにしたい。
→ 洗いやすいもの？ じょうぶなもの？
- ・ 服の知識があれば、洗たくの時でも、もし破れてしまった時、自分の力で何とかできるんじゃないかと思えます。なので、材質の性質や、おさいほうの技術をしっかり身に付けたいと思えます。
- ・ 自分がどう洗剤を使っているのかな、と考えると、何も考えて使っていないと気づいた。洗剤の使い方にも根拠があるはずだから、そういうことも学んで自信を持って自分の生活に生かしたい。
- ・ 服を選ぶのに、おしゃれの事しか考えていなかった。SDGsについても考える必要があるとか、思ってもみなかったけど、納得した。素材のこととか、それがどこで作られたものとか、色々な視点があるんだなと思った。なので、正しい知識をもって、いろんな視点で判断できるように勉強していきたい。
- ・ 服に限らず、デザインや値段を見て、目先の価値だけでなく買うことが多いので、まずは「長持ちするか」次に「どんなよいことがあるか」を考えたい。← よいこと、って、何？ これが言えるようになる！

(2) 自分の成長を見取る手立て

① 青ペンと赤ペンを利用した見取り

考えを深める場面や授業を振り返る場面の記述では自分の考えを記入した後、グループで発表し合い、自分とは異なる視点や新たな視点からの考えが出たときは、そのことを青ペンで書き込む。はじめに自分もっていた考えが、他者との交流の中でさらに

改善されることにも、成長の過程として気付く。

図3で示した展開の中段でも、青ペンと赤ペンを活用する場面を設定している。

個人→グループ→全体の流れで考えたり確認したりする際に、ワークシートにはまず自分の考えを鉛筆で記入⇒グループで意見を出し合うなかで、自分になかった視点や意見に納得した場合に、その意見を青ペンで記入⇒学級全体などで考えを深めたときに得た意見を赤ペンで記入する。

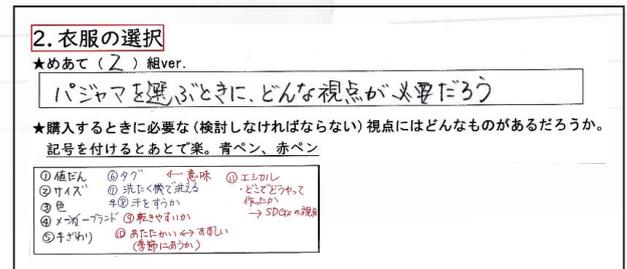


図4 記入するペンの色を工夫したワークシートの例

ワークシートの一つの枠の中で、鉛筆→青ペン→赤ペンと、考えが深まったり、視点が広がったりする様子を視覚的に確認でき、それを経てその授業内で生徒自身が成長を自己認知できる。鉛筆部分にも消しゴムなどを使わないようにルールを決め、間違っと思ったことも、自分の成長の足跡として残す。

このような手立てを毎時間繰り返すことによって、生徒は、自分の力で考えたことを記入する場面で間違っことを恐れない姿が増え、その後に自信をもって話し合い活動に臨む効果も得られる。

② 授業の学びをふり返る工夫

【学びの記録1】 2年 2組 番(B)

学習項目(内容)	今回の授業で何が分かったか、何ができたようになったか。何を考えたり感じたりしたか。	今回の授業で学んだことをどのように生活に生かせると思うか。
10/22 (金) A パジャマを選ぶときに、どんな視点が重要だろう	前回は、すぐに捨ててしまおうという考えしかなかったけれど、今回の授業のおかげで、捨てるのはなく、つくりなおしたり、リサイクルすることの大変だと感じました。	自分の目からは、価格や素材が購入の基準に思っていた。買いたいのを買っていただけで、今後そういうものも買う決めた方がいいかな。
11/5 (金) B 繊維について	自分が思っている以上にたぐさんの繊維が硬かったり柔らかかったり、それぞれ性質や使われているものが全然ちがうのって、初めて気づいた。	たぐさんの繊維の種類、そして、性質を覚えて、季節や気候に合った服を選べるようにしたいかな!
11/9 (火) C 布の性質について	繊維を見ると、両方の性質を兼ねて、使いやすい要素はたくさんあることがわかりました。布の性質やそれぞれの性質は、糸の太さや糸の結び目などによって変わることが知りました。	手入れの仕方は、糸の太さや結び目を見ることができるといいかな。ちゃんと見たいかな!

図5 「学びの記録」の記入例

ふり返りを記述するワークシートには、やや厚みのあるカラー上質紙を用いてファイルする。これを生徒との間では「題材の表紙」と呼称している。ふり返りを記入するのは裏面部分の「学びの記録」(図5)で、授業や内容の区切りごとにふり返りを記述する。1枚の用紙に記入していくことで、学んできた内容やそれをどう生活に生かそうと考えたかなど、自分の姿をふり返り、新たな課題や再度取り組むべきことに気付く。

図のA欄：それぞれの学習内容における自分の学びの姿を確認。B欄：その学びを次の学びや生活、あるいはほかの教科や領域の授業でどのように生かせると思うかを記述する。

③ 内容のまとまりをふり返る工夫

図5で示した「学びの記録」の反対面(表面)を図6に示す。

衣服の選択と手入れ

題材の目標

【知識及び技能】

①衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解する。

②衣服の計画的な活用 of 必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできる。

【思考力、判断力、表現力等】

①衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

【学びに向かう力】

①よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れのしかたについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

【題材を通しての振り返り】以下について、具体的な例を挙げて述べなさい。

①題材を学ぶ前の自分の様子

②この題材で自分が学んだこと、成長したこと、変わったことなど

③この学びをほかの教科や生活にどのように結びつけていけると考えるか。

図6 「題材の表紙」の表面

内容(題材)の導入時に、このワークシートを用いて、題材の目標を生徒と共有する。これらの目標を、必要に応じて確認することで、何を学び、何をふり返って自己評価するのかを明確にする。

下部は、題材の学習を終えるときに記入する。何についてふり返るのかを明確に示し、図5で示した「学びの記録」を生徒自身が確認することで、内容のまとまりとして、自分の学びの様子を評価できるように構成している。

3 自己評価の視点を明確にする工夫

調理や衣服の手入れなど、実技を伴う学習内容の評価では、「適切にできる」ことが求められる。それがどのような状態を指すのか、あらかじめ生徒と

共有しておく必要がある。

例えば、まつり縫いについて学習する際には、まつり方の特徴とポイントを明確に示し、それを理解させることが重要である。

まつり縫いは、すそなど、布の端をまつる方法で、必ず表面に縫い目が表れる。じょうぶさを求める通常の縫い方とは異なり、縫い目をいかに目立たないようにするか、または美しく見えるようにするかが課題となる。「なぜそのように縫うのか」を理解することで、技能のスキルも高まり、図7のようなポイントを示すことで、生徒が適切に自己評価し、改善点を見いだすことができる。

1	糸の取り方	一本取りで縫う ミシン糸か、30番(細口)の手縫い糸で縫う(本校独自) 布に対して目立たない色の糸で縫う(本校独自)
2	玉結び	抜けない大きさを、布の表側からも裏側からも見えないようにする
3	玉どめ	抜けない大きさを、布の表側からも裏側からも見えないようにする
4	まつり縫い	<ul style="list-style-type: none"> ①表地を裏からすべて2mm以内の大きさをすくう ②表の縫い目がほぼ一直線になる ③表の縫い目がほぼ等間隔 ④裏の三つ折りの折り山のすくいがすべて約3mm以内である ⑤糸の引き加減がつけたり浮いたりしない ⑥裏の三つ折りをすくう向きが正しい ⑦表の縫い目の間隔が0.8cm~1cm(本校独自)

図7 まつり縫い作業にかかる評価の観点(平成19年度特定の課題に関する調査 技術・家庭 家庭分野 内容② 調査Ⅱ による)

また、このポイントについて実感を伴って理解するために、図8の縫い方見本を各グループに提示した。縫い始める前に概要を把握する際だけでなく、縫ったものを確認する際に、この見本と比較して「適切にできた」点と、改善が必要な点を把握した。さらに、適切に縫えていない見本(図9)を提示し、図8の見本と比較することで、課題を見つけ、自分の縫い方の改善につなげることができた。その際、

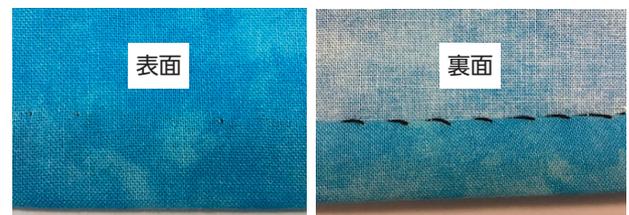


図8 まつり縫いの縫い方見本



図9 適切に縫えていない見本

図 10 のようにグループ等での教え合い活動を行い、相互に確認することで、改善点がより明確になった。

自己評価力が高まれば、他者と相互評価する力も高まる。生徒が互いの製作物や考えを、適切な視点に基づいて論理的に評価し、評価されることで、自分の学びを論理的に評価する力も高まると考えて、実践を進めている。

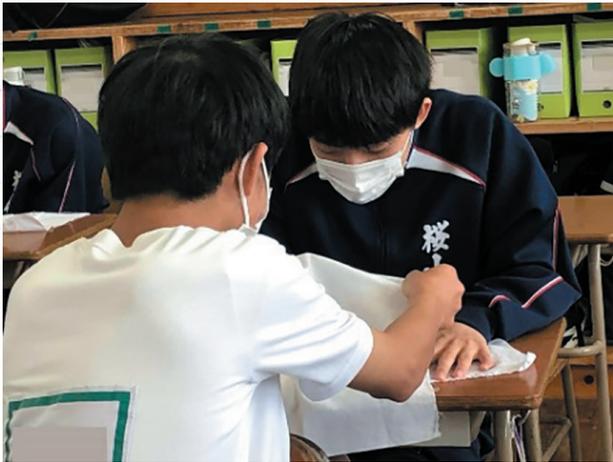


図 10 縫い方を相互評価する生徒

(3) 相互評価による自己評価力を高める工夫

学習指導要領 B (7)「衣生活の課題と実践」で「家族の衣類の洗濯と手入れ」の中から自分の課題を設定する場面で、課題設定の手順を確認したり、課題設定の理由を表現したりできるワークシートを工夫した。

課題設定を行う際の留意点として下のような項目をワークシート内にあらかじめ記載した。相互評価する際にもこの留意点に基づいて行うことで、生徒の中にある漠然とした考えや概念をワークシートに当てはめて表現できるようにした。

<p>1 課題設定に必要な視点(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①実践した効果が期待できること ②自分や自分の家庭の実態に合っていること ③自分の具体的な行動として実践可能なこと ④実践中や実践後の評価が客観的にできること <p>2 課題(目標)とそれを達成するための方法を混同させないようにするために、「～をする。そのために…」に当てはめて表現できるようにする。</p> <p>3 設定した課題が、他者から見ても的確なものであるかどうか検討する。(相互評価する。)</p> <p>4 上の1~3を踏まえて、課題を設定する。</p>
--

各自が仮に設定した課題について、グループ内で説明し合い、付せん紙を用いて相互評価したことを踏まえて、課題を設定する。

もし、実践の途中でうまくいかないことがあって

<p>①洗濯について困ること・もっとうまくやってみたいこと(課題候補)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白く下の土のよごれ(糞)、スリの汚れ ・アイロンかけの手順 ・セーラー・袖端など ・ポケットに入っている物ごと洗濯 ・アイロンでやけど ・タイツに至れできない ・給・排水器が落ちない ・部屋を干す時に、白布で干すように仕上げたい 	<p>他者からの付せん紙</p> <p>「におい」が気にならないうちに洗濯機においを入れること? 洗剤のにおいも考えて、いいにおいにする?</p> <p>においを消したいのが、においをあげて、いいにおいしたいのかが?</p> <p>洗濯のにおいをどうしたいのかが?</p> <p>臭いを消す又はたでぬい臭いを付けるのか</p>
<p>③自分の課題(～をする。そのために…) 部屋干しでもにおい気にならないうちに干す方法。 → 様々な洗剤や洗剤を試してみる。</p>	<p>部屋干しでもにおい気にならないように干す方法。 → 様々な洗剤や洗剤を試してみる。</p>
<p>④課題設定の理由(③の課題にした理由)</p> <p>私の床ではマシヨコであり日かあたらないため、部屋干しを行、ている。すると、外で干した時のあたりに感じられる人よりとした感じがなくてこそ祖母に「変なにおいがある!」と言われしょう。だから、そのようなことを今後言われないようにして、自分も気持ちよく暮らすため。</p>	<p>「4つの視点」をふまえて</p>
<p>⑤課題解決のための準備(調査・練習など)の見通し・計画</p> <p>様々な洗剤を試す → 3種類の洗剤を使う</p>	

図 11 課題を設定する際に使用するワークシートの例(抜粋)

も、実践準備まで具体的に検討する場を設定したことで、課題の設定に向けてグループ等で練り直した経験が生かされ、実践の計画を見直したり、課題そのものを見直してよりよい実践につなげたりすることが期待できる。

自分の発表について評価を受ける欄付せん紙は他者が書いたもの

<p>4 他人の発表を聞いて、評価しよう。その人の自己評価が妥当かどうか注目しよう。</p> <p>【評価の視点】①その人の成果が何か、分かったか。 ②その人が今後何をすればよいか(今後の課題)が分かったか → アドバイスする。</p>	
<p>実践課題 ()さん</p> <p>「日かかかないときの影干し」</p> <p>影干しにバスケットを持っていいことが分かった。次は、他の子たちも言われてほしいと思う</p>	<p>実践課題 ()さん</p> <p>「くつしたの汚れをとり」</p> <p>4つの方法の中身を少しも知れた。次は、おとどきまに洗える方法をしらべてみたいと思う</p>
<p>実践課題 ()さん</p> <p>「くつ下をきれいにする」</p> <p>理由をどうやって説明するのかわかりたい。</p>	<p>実践課題 ()さん</p> <p>「部屋着を洗う」</p> <p>どの洗剤が汚れがとれやすいのかわかった。どこも時間がかかるとわかった</p>
<p>5 自分の発表を聞いてもらい、4の「評価の視点」で評価をしよう。</p>	
<p>実践課題【</p> <p>下洗いをして、明朝かたにたかこので、目標達成できる?</p> <p>比較して良かった。道具を使うと成果がどう変わるか気になりました!</p>	<p>水の課題として、道具を使ってみるというか良いと思った</p> <p>下洗いとそれだけという成果が得られていたよ。た。道具を使うという課題も良いと思う。</p>

自分が他者の発表を評価する欄付せん紙は自分が書いたもの

3 研究の成果と課題

また、実践の計画や実践結果の発表を相互評価する際に、付せん紙の間に複写紙を挟んで記録することで、同じものを2枚作る(図12)。図13のように、それぞれの生徒は1枚を自分のワークシートに貼り、もう1枚を評価の相手に渡すことで、他者への評価内容と他者からの評価内容の両方を1枚のワークシートに残せる。このことで、自分が他者をどう評価したか記録し、評価力を高めることができる。



図12 複写式付せん紙に記入する様子

日々の授業実践の中で、論理的に評価する場面を積み重ねたことにより、確かな手応えを感じている。以下は半年間の授業を経た、本年度の2年生のふり返りの言葉である。

- ・僕は、色々な洗濯の記号に興味を持ちました。記号の勉強をしてから、この服にはどんな記号が付いているんだろうと自分で確認してみるようになりました。見ているときに、親に「何しているの?」と聞かれ、それについて解説したあと、たくさん勉強したんだな、と自分で思い、とても嬉しかったです。
- ・いつもの母の洗濯方法と比べながら、洗濯に取り組んでみました。すると、間違っていた洗濯方法と課題を見つけ出すことができました。この学習を通して、自分の家での課題を見直し、課題解決方法について考えました。私の家では、何もかも一緒に干していたことが課題でした。これからは、新しく買った服の取り扱い表示に目を通して、洗濯方法を家族と相談する事になりました。
- ・一つ一つの行動に意味を見だし、できないことがあったら原因を考えてまた再チャレンジする。そういう考え方をできるようになった。
- ・家庭科の視点から、自分の家の問題点に気づき、対処の仕方を学べたし、取り組んでみようという気になった。

《参考資料》

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭」2020
- ・筒井恭子『中学校技術・家庭科家庭分野 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫』東洋館出版社、2021
- ・熊本大学教育学部附属中学校『教えたいのは「考え方」です。－思考力を活かす・広げる・深める授業改善－』学事出版、2014

(本研究・及び授業実践は、2022年8月3日第72回全国家庭科教育協会研究大会において発表したものの要約)

4 他者の発表を聞いて、評価しよう。その人の自己評価が妥当かどうか注目しよう。

【評価の視点】①その人の成果が何か
②その人が今後何をす
→アドバイスする。

自分が他者の発表を評価する欄。
付せん紙は自分が書いたもの。

<p>実践課題 ()さん</p> <p>日かきがなびきの影干し</p> <p>影干しにバスケットを使う いいことか分かった。 次は、他干し方も調べてみ たい。</p>	<p>実践課題 ()さん</p> <p>くしたの汚れをさる</p> <p>4つの方法の中身を少しも 知りたかった。 次は、もっときれいに洗えるお 法をさがしてみたい。</p>
<p>実践課題 ()さん</p> <p>つたをきれいにさる</p> <p>理由をどうやって解明するの か知りた。</p>	<p>実践課題 ()さん</p> <p>部活着を洗う</p> <p>どの洗剤が汚れかたやけり か。</p>

自分の発表について評価を受ける
欄。付せん紙は他者が書いたもの。

5 自分の発表を聞いてもらい、4の「評価の視点」で評価を得よう。

実践課題【

<p>下洗いをする。時間がたつ たかかので、時間を短縮したい?</p>	<p>次の課題として 道具を使ってみるのか か。</p>
<p>比較して見て良かった。 道具を使うと成果がどう 変わるか気になりました!</p>	<p>下洗いと下洗いという成果 が解明できて良かった。道具を 使うという課題も良いと思う。</p>

図13 実践内容を相互評価する際のワークシート例(抜粋)